

医療機関等において用法マスタを準備する際の留意点等

令和7年7月 1.3 版

厚生労働省 医薬局

社会保険診療報酬支払基金・国民健康保険中央会

改訂履歴

版数	改訂年月日	該当箇所	内容
1.0	令和5年1月20日	初版	初版作成
1.1	令和5年7月7日	P3	2.説明文の変更 図の変更 (注)の説明文の変更
		P4	3.表#2～#4の順番の入替え 3.表#2 「用法マスタを順番する際の留意点」の説明文の変更 「記録例」の汎用コードの修正 3.表#3 「用法コード区分等」の説明文の変更
		P5	4.2つ目の箇条書き説明文の変更
1.2	令和5年10月13日	P5	4.3つ目に箇条書き説明文を追加
1.3	令和7年7月1日		電子処方箋用法マスタの改定に伴い、以下の修正を行った。 ・拡張コードの名称を改め、「適用ガイドコード」と呼称することとした。 ・汎用コードの削除

目次

1. はじめに	3
2. 用法コード選択の基本的な考え方	3
3. 用法マスタを準備する際の留意点	3
4. 補足	5

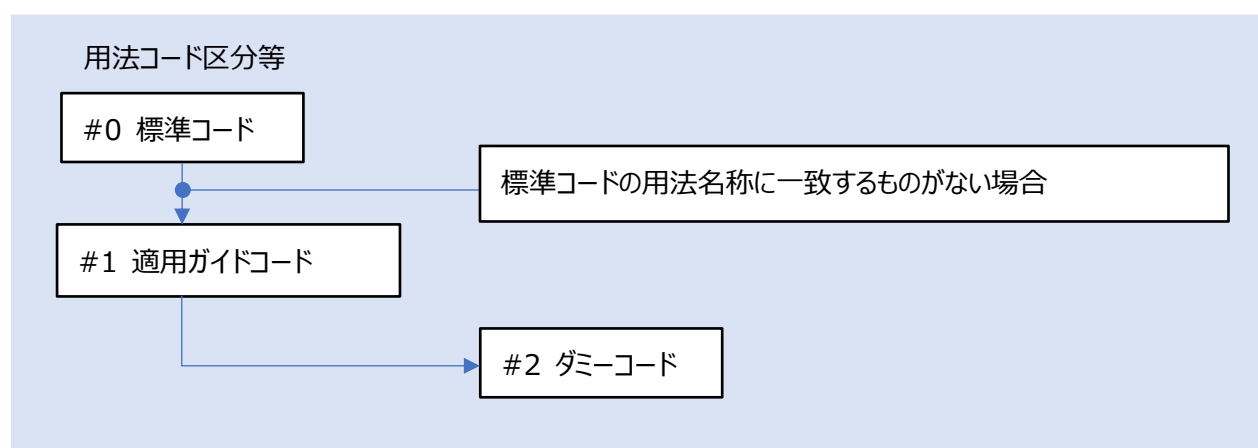
1. はじめに

本書は、医療機関等において電子処方箋管理サービスの処方箋情報（CSV 形式）等を記録するための用法マスタ（医療機関等における用法マスタ）を準備する際の基本的な考え方や留意点をまとめた資料です。用法マスタの準備にあたっては、標準用法マスタの用法コードとの円滑に設定を行うため本書を参考にしてください。

2. 用法コード選択の基本的な考え方

電子処方箋管理サービスの処方箋情報（CSV 形式）を記録するための用法コードを選択する際には、標準用法マスタの用法コード区分に基づいてまずは標準コードから優先して使用してください。特に、内服薬に係る用法について使用を検討ください。（複数の医療機関・薬局での電子的な情報共有にあたっては、統一的なコード（標準コード）を使用することによって、関係者が同じ認識で運用することができます。）

標準コードの用法名称に一致するものがない場合は処方・注射オーダ標準用法規格 電子処方箋用法適用ガイドにもとづくコード（適用ガイドコード）をもとに設定してください。万一必要な用法がない場合は、特定の用法を意味しないコード（ダミーコード、コードと併せて用法を適切に入力する）を使用してください。



（注）用法コード区分等について

「用法コード区分」は、標準用法マスタにおいて用法コードを分類するために設けている区分であり、標準コード、適用ガイドコードがあります。本資料では、これらにダミーコードを加えて「用法コード区分等」と表記します。なお、標準用法マスタにおいては、標準コード：0、適用ガイドコード：1 で定義しています。

3. 用法マスタを準備する際の留意点

用法マスタは上記の用法コード選択の基本的な考え方を踏まえて、必要な用法コード・用法名称等を登録するように準備してください。その際の留意点を以下に示します。

#	用法コード区分等	用法マスタを準備する際の留意点	記録例
0	標準コード	標準コードを用いて用法を記録する場合は、当該コード及び用法名称によって回数及びタイミング等が指定できます。まずは標準コードから該当する用法コードを選択するようにしてください。 なお、以下の場合は用法補足レコードを用いて詳細な情報の記録（指示）が必要です。 ① 頓用を指示するものであって、「必要時」、「適宜」としたもの（具体的なタイミング等を補足） ② 外用・注射・注入の用法であって、投与する部位を示す必要があるもの（部位に関する情報を補足） なお、「部位」コードが、 0 の場合、補足不要、 1 の場合、任意、 2 の場合、左・右・両の別、 3 の場合、補足が必須 です。 上記以外であっても、必要に応じて用法補足レコードを用いて詳細な情報の記録が可能です。	<u>用法補足レコードを用いない例：</u> 111,1,3,1012010100000000, 1 日 2 回朝夕食前 服用,2 <u>用法補足レコードを用いて補足した例</u> ①： 111,1,3,1050W10000000000, 必要時 服用, 181,1,1,5,乗り物酔いした際,, <u>用法補足レコードを用いて補足した例</u> ②： 111,1,3,2H50B10000000000, 起床時 点眼, 181,1,1,6,両眼,,
1	適用ガイドコード （適用ガイドコードとは、「1 日〇回 貼付」のように、回数・時刻・特定の条件等を用法名称に明記せずに、可変の情報として、仮の文字（〇）または文章で表記した用法の区分です。可変の情報を含めた用法名称を、用法補足レコードで記録することが前提です）	適用ガイドコードを用いて用法を記録する場合は、当該コードだけでは回数及びタイミング等が指定されていないため、必ず用法補足レコードと併せて用法を記録する必要があります。用法補足レコードには、具体的な回数や条件等を指定した用法を記録してください。 また、用法名称は「1 日〇回 貼付」等から変更せず（〇は〇のママ）、用法補足レコードで、〇に相当する情報を補足してください。 ① 頓用を指示するものであって、「（特定の条件の場合）」とした	<u>用法補足レコードを用いて補足した例</u> ①： 111,1,3,105031Z0000000000, 血圧上昇時（特定の条件の場合）服用, 181,1,1,5,1 4 0 mmH g 以上,, <u>用法補足レコードを用いて補足した例</u> ②： 111,1,3,2K7Z00000000000000, 1 日〇回 うがい, 181,1,1,5,1 日 1 1 回,, <u>用法補足レコードを用いて補足した例</u> ③： 111,1,3,1033Z00000000000000,

#	用法コード区分等	用法マスタを準備する際の留意点	記録例
		もの（具体的な条件を補足） ② 服用の回数が、仮の文字（○）としたもの（なお、具体的に、1回、2回などと、標準コードで規定されているものがあれば、標準コードを使用する） ③ 投与の時刻を具体的に示す必要のある、「決まった時刻」としたものの	1日3回決まった時刻に服用,3 181,1,1,5,1日3回 9時 15 時 21時に服用,,
2	ダミーコード （ダミーコードとは、標準コード・適用ガイドコードにおいて該当する用法コードがない場合に使用する用法コードです）	電子処方箋管理サービスから提供する用法マスタに該当する用法コードが1つもない場合は、用法コードに“0X0XXXXXXXXXX0000”を用いて記録してください。 特定1つの用法を意味するコードではありません。	111,1,3,0X0XXXXXXXXXX0000, 【自己注射】インスリンポンプを用いて（CSII）,

4. 補足

- 医療機関等における用法マスタの準備において、電子処方箋管理サービス向けの処方箋情報（CSV形式）等に記録するための用法コード・用法名称は、標準用法マスタの用法コード・用法名称と一致するように準備してください。全角、半角、空白など含め、一致する必要があります。
- 適用ガイドコードを用いて用法を記録する場合は、必ず用法補足レコードの記録が必要となります。
- 電子処方箋管理サービスに記録されたダミーコードのうち、標準コードに置き換え可能な用法を「（別紙）標準コードで記録可能な用法例について」にまとめています。当資料を参考に、該当するコードがある場合は標準コードを使用してください。
- ダミーコードは、特定1つの用法を意味するコードではありません。ダミーコード（0X0XXXXXXXXXX0000）が特定1つの用法を意味するものとして、医療機関・薬局システムにおいて、設定されないよう十分留意してください。

以上